

科目名 Subject	授 業 形 態	単 位 数	必修, 選択の別	開 講 学 年	開 講 期 間
機械製図 Mechanical Drawing	講義と実習	2 単位	必修	1	通年
【 担 当 教 官 】 猪瀬 善郊					
【 教 官 室 及 び 連 絡 先 】 機械工学科棟 2 階, Tel:0285-20-2205, E-mail:yinose@oyama-ct.ac.jp					
【 授 業 目 的 】 1. 図面に用いる正しい線と文字を身につける。 2. 製図器具を用いて正確な図形を描く。 3. 基礎的な図学の方法を学ぶ。 4. 投影法の基礎を学び、三角法投影図を描く。 5. 立体的な図示法や展開図を学ぶ。 6. 製作図の基礎を学び多くの三面図を描く。					
【 達 成 目 標 】 1. 機械製図の基本となる正しい線と文字、正確で見やすい図面を描けるようになること。 2. 立体を三面図で正確に表現でき、また図面から立体を正しくイメージできるようになること。					
【 学 習 保 証 時 間 】 講義：100(分/週) × 7 (週/年)=700(分/年)= 11.7(時間/年) 実技：100((分/週) × 23(週/年)= 2300(分/年)=38.3(時間/年) 合計：11.7+38.3 = 50(時間/年)					
【 授 業 キ ー ワ ー ド 】 投影図、第三角法、等角図、展開図、断面図、寸法記入					
【 授 業 内 容 】 講義は最小限とし、実際に線、文字、図形を描く実技を中心とする。 と A 4 ケント紙を用いて毎授業ごとの課題を製図室で製図し提出する。					
【 授 業 方 法 】 提出作品は原則として次の授業時には採点して返却する。					
【 時 間 毎 の 授 業 項 目 】 1. 製図用具の使いかたと線と文字の基本 ( 3 週 ) 2. 正確な図形を描く 平面図形 ( 4 週 ) 3. 投影法 第三角法図学 ( 5 週 ) 4. 等角図とキャビネット図 ( 3 週 ) 5. 展開図 ( 4 週 ) 6. 図形表現の工夫と製作図 ( 7 週 ) 7. 製作図に出てくる機械の基礎知識 ( 4 週 )					
【 教 科 書 】 課題プリント					
【 参 考 書 】 特になし					

<p>【 学 習 方 法 】 各授業時間ごとに指示される課題と注意点を良く聞き、正確であると同時に出来るだけ見やすい図面作成を心がけること。</p> <p>返却された提出図面に添えられたコメントを忠実に守るようにする。</p>
<p>【成績評価の方法と基準】 原則として提出図面の評価点 50%</p> <p>授業態度 50% (作品提出の期限や努力の程度を含む)</p>
<p>【定期試験実施方法】 試験は実施しない。(上記の成績評価法による)</p>
<p>【カリキュラムの中の位置付け】 これからの専門科目の基礎としての科目である。</p>
<p>【この科目を学ぶために先行して なし 理解する必要のある科目】</p>
<p>【この科目と同時に学ぶ関連科目】 工作実習</p>
<p>【この科目の後に学ぶ関連科目】 機械工作法、機械製図、工作実習</p>
<p>【学生へのメッセージ】 図面の作成の上手下手には学生個人の向き不向きがかなり関係する。</p> <p>しかし、図面は技術情報の基本的な伝達手段なので、自分には合わない決め付けずに地道に努力する姿勢が大切である。</p>
<p>【 連 絡 事 項 】</p>